

入試（詳細は募集要項にてご確認ください）

▶博士前期課程

1. 募集人員

専攻	入学定員	選抜区分		
看護学専攻	10名	一般選抜	社会人特別選抜	学内推薦選抜

2. 選抜方法

選抜区分	出願資格	選抜方法等	試験科目
一般選抜	看護師資格又は看護師国家試験受験資格を有する者で、大学を卒業した者、当該年度に卒業見込みの者及び本学が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた22歳以上の者	英語、小論文及び面接の結果並びに学業成績証明書の内容を総合して行う。	●英語 (英語外部検定試験®のスコア) ●小論文 ●面接
社会人特別選抜	上記一般選抜の資格を持ち、医療機関等や官公庁に在職し、機関の長から推薦された入学時3年以上の実務経験がある者	英語、小論文及び面接の結果並びに学業成績証明書、推薦状の内容を総合して行う。	●英語 (英語外部検定試験®のスコア) ●小論文 ●面接
学内推薦選抜	本学を卒業予定の看護学部生で、学業成績及び人物ともに優れた者	面接試験による選抜を行う。	●面接

※本学の入学者選抜に係わる出願期限から過去3年以内に受験したTOEIC L&R（公開テスト）又はTOEFL（iBT）の成績を証明する書類等を出願時に提出すること。

▶博士後期課程

1. 募集人員

専攻	入学定員
看護学専攻	2名

2. 選抜方法

出願資格	選抜方法等	試験科目
看護師資格を有する者で修士の学位を有する者等	英語及び口述試験等の結果を総合して行う。	●英語 (英語外部検定試験®のスコア) ●口述試験

※本学の入学者選抜に係わる出願期限から過去3年以内に受験したTOEIC L&R（公開テスト）又はTOEFL（iBT）の成績を証明する書類等を出願時に提出すること。

入学金・授業料

入 学 料	富山県の住民	188,000円
	富山県以外の住民	282,000円

授 業 料	前期・後期	267,900円 (年間535,800円)
-------	-------	--------------------------

※その他テキスト代、実習に伴う経費（交通費等）がかかります。

免除制度

制度名称	対象	納入額	主な基準
富山県立大学授業料免除制度	大学院生 専攻科生 留学生	全額免除：0円 半額免除：133,950円	次のいずれかに該当する者 (ア) 経済的理由により修学に困難があり、かつ、学業成績が優秀であると理事長が認めた者 (イ) 制度ごとに定められた期間内において、学費負担者が死亡し、又は本人若しくは学費負担者が天災その他の災害を受け、経済的理由により修学に困難があると理事長が認めた者
富山県立大学入学科免除制度	大学院生 専攻科生 留学生	全額免除：0円 半額免除：94,000円（県内出身者） 141,000円（県外出身者）	



JR 富山駅、あいの風とやま鉄道富山駅から、地鉄バス「中央病院行」約20分、または地鉄電車「米町駅」下車後、徒歩7分。



〒930-0975 富山県富山市西長江2丁目2番78号
TEL: 076-464-5410 FAX: 076-422-6070
URL: <https://www.pu-toyama.ac.jp/>



Toyama Prefectural University Graduate School of Nursing

富山県立大学大学院
看護学研究科
2025

研究科長挨拶



看護学研究科長
松井 弘美

富山県立大学大学院看護学研究科看護学専攻は令和5年4月に修士課程(令和7年4月より博士前期課程に課程変更)を開設、令和7年4月からは新たに博士後期課程を開設しました。

近年、少子高齢化の進展、医療提供の場の多様化、地域包括ケアシステムの構築等により、地域の実情に応じた看護の展開が求められています。富山県の保健医療福祉においては、健康づくりの支援・生活習慣病予防の推進・認知症対策・地域における子育て支援など様々な課題が山積しています。看護職には「医療」と「生活」の視点をもつ専門職として、多元的・多角的視点から地域や社会の保健医療福祉の課題を把握するとともに、課題解決に向け根拠となるデータに基づき必要なケアを創出し、構築していく能力が必要です。

博士前期課程では、論理的・科学的に課題を分析する能力を養い、地域や社会の保健医療福祉の現状と課題を理解し、課題解決の方法を探究します。さらに、博士後期課程においては、課題解決に向けたケアの創出・実践・評価の一連の研究活動を自立的に遂行する能力を養います。このように、大学院では、博士前期課程から博士後期課程へと一貫した教育を行い、地域の看護を指導・牽引できる人材を育成します。

学生の皆さんとともに富山県の保健医療福祉の課題解決と地域に暮らす人々の well-being を目指していきたいと思っています。



施設紹介

図書館



図書館棟の1階は自主学習等に使用できる交流スペース、2階はアクティブラーニングスペース、3階は落ち着いた環境で学修や読書ができる閲覧室を備えています。図書館には看護に関する論文・雑誌など全部で約2万冊の本が蔵書されており、国家試験の勉強に励む学生や文献を調べる院生が多く利用しています。

平 日 8:30~19:00
土曜日 9:00~16:00

データ分析室



院生が自身の研究のために集めたデータをこの部屋で解析し、論文作成等で利用する場所となっています。電子黒板、解析データを取り込むPC、プリンターなど完備しており、この部屋から看護研究に関する新たな発見が生まれるかもしれません。

社会人に対する配慮

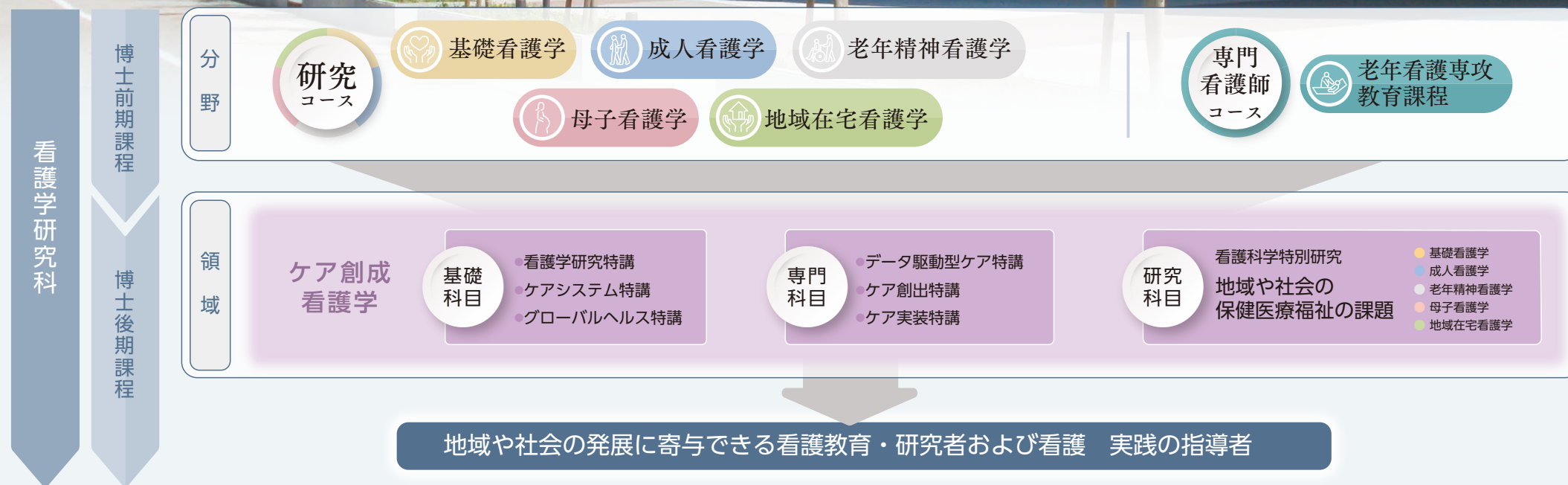
夜間・休日授業、長期休暇期間を利用した集中講義など個々の時間に配慮した指導時間の設定

定職者向けに修業年限(博士前期課程は2年、博士後期課程は3年)を超えて2学期(1年)分まで延長できる長期履修制度あり

教育訓練給付制度を用いた経済支援

教育訓練給付制度

本学看護学研究科では教育訓練給付制度の対象講座として厚生労働省に指定申請を行っています。教育訓練給付は雇用保険に加入している等一定の受給要件を満たす方が、厚生労働大臣の指定を受けた教育訓練を受講・修了した場合に、その費用の一部が教育訓練給付金として支給されるもので、大学院での学び直しを目的とする方には経済的なメリットが大きいです。(支給条件等詳細は厚生労働省ホームページまたはお近くのハローワークへご確認ください。)



博士前期課程コース

広い視野に立って、看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深める教育研究を行い、看護学の発展、様々な形態での看護の実践及び地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成します。

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

本研究科(博士前期課程)の入学者には、看護師資格又は看護師国家試験受験資格を有する次の素養をもった人を求めます。

- 1. 看護学の基礎知識と総合的な学力を有する人
- 2. 豊かな人間性と高い探究心を持ち、自主的・意欲的に学び、看護学の向上に寄与したい人
- 3. 倫理観及び、地域社会や国際社会に貢献する意思と責任感を有する人

ディプロマポリシー

- 1. 医療及び看護の先端技術を含む高度な専門的知識を持ち、活用する能力を身につけている。
- 2. 保健、医療、福祉の場で、リーダーシップを発揮し、多職種・多機関と連携・協働し、看護倫理に基づく実践能力を身につけている。
- 3. 看護学研究を進める上での一般的手法を理解し、課題を科学的に解決する能力を身につけている。
- 4. 国際的な保健医療に関心を持ち、柔軟な思考と広い視野を身につけている。
- 5. 地域や社会の保健医療福祉の課題解決に向けて主体的に取り組む能力を身につけている。
- 6. 看護職者として生涯にわたって自己研鑽し続け、プロフェッショナルとしての高い意識と倫理観をもって行動できる力を身につけている。



専門看護師コース

医療・介護ニーズの高い75歳以上人口の増加が続く富山県の現状を踏まえ、老年看護学分野の専門看護師を育成します。老年看護分野の専門性を発揮しながら、卓越したケアを提供するとともに、総合的な判断力と広い視野を持って、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究の6つの役割を果たし、施設全体や地域の看護の質の向上に努めることができる能力を培います。

老年看護専攻教育課程

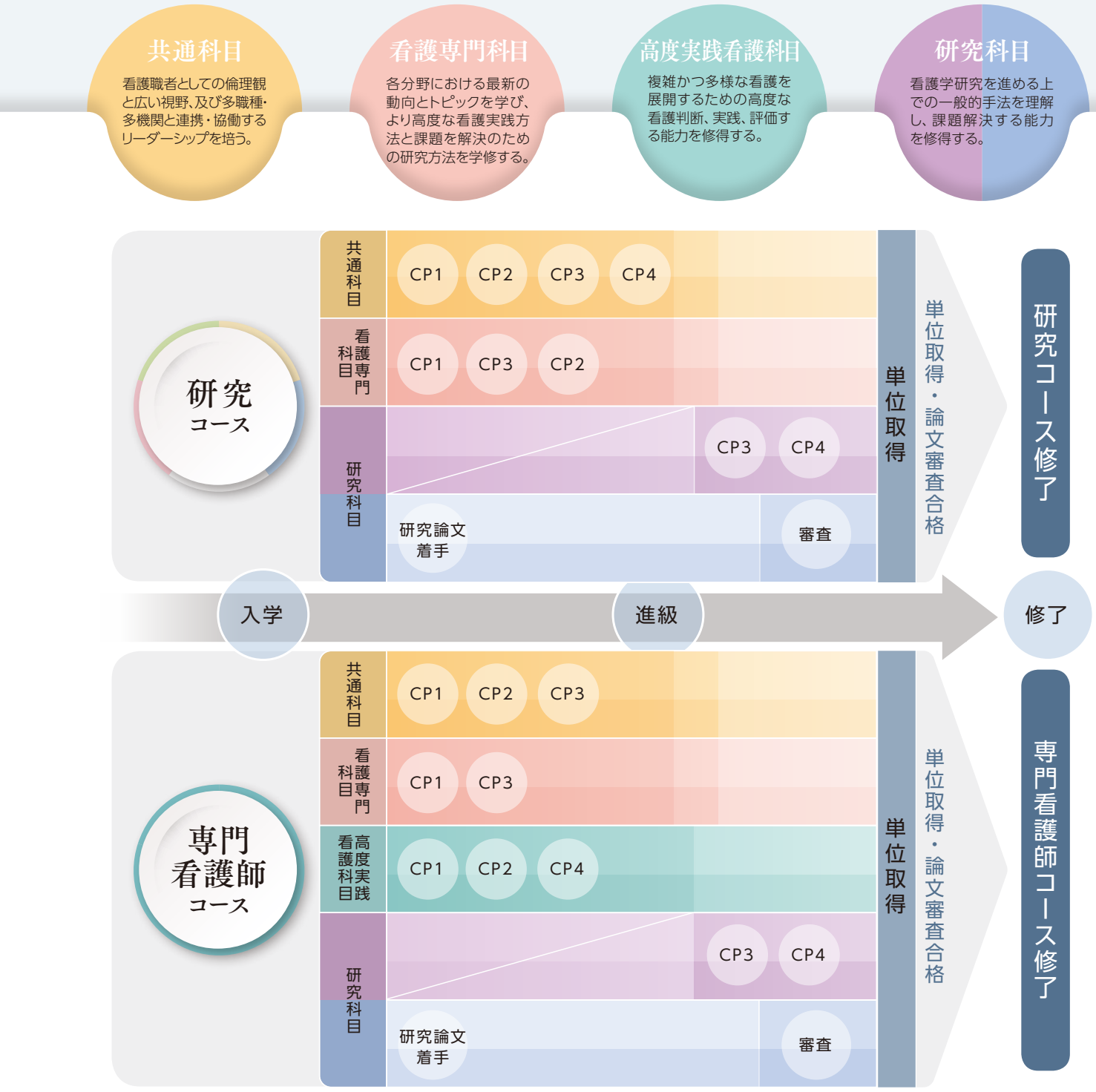
富山県の看護を担い、看護のスペシャリストでもある専門看護師の輩出を目指します。



博士前期課程カリキュラム

カリキュラムポリシー

- 1. 医療や看護の先端技術を含む、より高度な専門的知識を身につけ、活用する能力を育む。
- 2. 保健、医療、福祉などのあらゆる場において、リーダーシップをもって多職種・多機関と連携・協働し、倫理に基づく看護を実践する能力の一層の向上を図る。
- 3. 看護学研究を進める上での一般的手法を理解し、より困難な課題に挑戦し解決する能力を培う。
- 4. 国際的な保健医療に関心を持ち、併せて地域や社会の保健医療福祉の課題解決に向けて主体的に取り組む能力を培う。



※入学から終了までの、各 CP (カリキュラム・ポリシー) に位置付けられた授業科目の履修イメージです。学生個々の事情を踏まえ、2～3年にわたる履修計画に基づいて修了を目指せます。

博士前期課程研究指導教員紹介

職位は2025年4月時点を予定

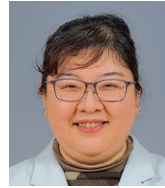
	教 授 岡本 恵里
研 究	
●看護技術、 ユマニチュード、教育方法	

看護基礎教育・卒後教育・看護継続教育という看護生涯教育に興味を持ち、学習者の主体性を引き出すような教育プログラムの構築やデジタル教材の開発等、教育方法や教育評価について研究をしています。主なテーマは、看護倫理・フィジカルアセスメントなどの看護技術の教育、看護師の自律的キャリア形成・職業性ストレスや離職、認定インストラクターの資格を活かしたユマニチュード®や認知症看護に関する内容です。

母子看護学

	教 授 松井 弘美
研 究	
●助産基礎教育・ 臨床判断・臨床推論	

熟練助産師の臨床判断のプロセスは、推論を用いた論理的思考とヒューリスティックによる直観的思考を連動させ分娩時の状況を解釈し、またその過程で助産師としての分娩の考え方と照らし合わせて判断していました。今後は分娩期の異常として助産師が最も多く経験していた事例における助産師のスク립トを分析し、助産師の臨床推論の内容を具体的に提示し、基礎教育で推論を学ぶ方法の開発につなげたいと考えています。

	准教授 小林 絵里子
研 究	
●母乳育児支援、 NICU・新生児看護、 シミュレーション教育	

母乳育児をしたい母親を支援する医療者のケアや知識習得の支援に関する研究、NICU や新生児看護に関する研究を行っています。また、シミュレーション教育は学生にも社会人にも学習効果が大いといわれていますが、効果的なシミュレーション教育プログラムの開発に取り組んでいます。経験を貴重な学びの機会とするために観察方法を学ぶ一助となり、教育の質向上につながると考えています。

基礎看護学

	教 授 林 静子
研 究	
●臨床判断・看護技術教育・ VR 教材開発	

熟練看護師の知識と経験に基づく観察力および臨床判断能力を客観的に示すため、看護師の視線計測とその思考過程に関するインタビューを組み合わせた調査を行っています。この調査結果を基に、VR / MR 技術を活用して、熟練看護師の経験をリアルに再現し、体験できる環境を提供することを目指しています。この技術を活用して、経験の少ない看護学生や新人看護師が、熟練看護師の観察力や臨床判断能力を効果的に学べる教育教材の開発を進めています。

	准教授 浦井 珠恵
研 究	
●褥瘡予防ケア・創傷看護・ 看護技術	

創閉鎖部を評価するデバイスとして、これまで超音波診断装置(エコー)やスキンプロッティング(Minematsu T et al., 2014) の有用性を検討してきました。摩擦係数が低い被覆剤の貼付により再発を予防できた症例(Urai T et al., 2019)を経験し、骨突出部にかかるずれ力の軽減が褥瘡の再発予防に重要であると考えています。現在は、骨突出部にかかるずれ力を指標にした褥瘡予防ケアの評価に向けて取り組んでいます。

	准教授 村田 美代子
研 究	
●親子相互作用・育児支援・ 乳児の泣き	

出生後の乳児の抱き方は横抱き、縦抱き、生理的屈曲姿勢抱きなどがあり、抱き方における乳児の生理学的影響を明らかにすることで、母親やその家族の育児支援につながると考えています。抱き姿勢画像の機械学習の分析では、生理的屈曲姿勢抱きの識別は、91.0%の正解率が得られ、今後子育て中の親に限らず、出産前から人形を用いた抱き方の自己チェック等ができるアプリ開発など親になる人々への活用ができるのではないかと考えます。

	准教授 寺井 孝弘
研 究	
●子ども虐待予防、 育児支援、尺度開発、 小児看護学	

日本の人口動態や社会情勢が変化する中、厳しい環境で過ごす子どもがいます。子ども虐待やいじめ、抑うつなど、子どもの未来において影響を与えかねない問題は減らし、よりよい育児を行っていくためには養育者への支援も欠かせません。研究では、親が育児困難に陥る心理傾向を尺度としてまとめました。この尺度を指標の1つとして、支援が必要な親を早期に把握し、誰一人取り残さない支援システムの構築を考えています。



成人看護学

	教 授 片田 裕子
研 究	
●慢性疾患看護、 成人看護学教育	

医療機関の協力を得て、患者や看護師のデータから機器開発、プログラム開発、リラクセーション法効果の研究を行っています。正確で継続的な生活実態の把握から合併症予防に繋げることににより患者への効果的な看護、看護師の効率的な看護実践の検証を行います。このことより今後の超高齢化、医療の多様性選択、医療従事者のセルフエフィカシー向上等、個性のある、人にやさしい看護実践および発展への寄与を全人的な視点から目指します。

	教 授 比嘉 肖江
研 究	
●エンドオブライフケア、 グリーフケア	

スピリチュアルウェルビーイングとは、「人生の意味と目的を、自己・他者・世界・自分より 大きな力とのつながりの中で統合するパターン」のことをいいます(NANDA-I,2021)。これまで、インドネシア共和国ジャカルタ・イスラーム病院をフィールドに、スピリチュアルウェルビーイングの調査研究を行ってきました。現在は、その調査研究を基に、エンドオブライフケアと医療者のグリーフケアの研究を行っています。

老年精神看護学

	教 授 張 平平
研 究	専門看護師
●健康増進、腰痛改善、 経穴刺激	

本研究では、地域高齢者自身がやりやすく、臨床で鍼灸効果が検証された腎虚腰痛の改善につながる経穴として、「腎経」と「脾経」に属する下肢3箇所の経穴(1築賓(ちくひん)、2復溜(ふくりゅう)、3漏谷(ろうこく))を精選します。老年看護の専門家と東洋医学の専門家による指導と安全 確認のもと、地域高齢者が自ら経穴刺激法を実施します。腰部血流の増加につながる経穴刺激の効果は主観的・客観的な側面から評価します。

	教 授 木谷 尚美
研 究	専門看護師
●認知症ケア・ 意思決定支援・発達課題	

初期認知症高齢者が老年期の発達課題である「人生の統合」を獲得するための「現在・過去・未来を語り、オレンジノートに遺す支援プログラム」を開発しました。認知症初期の段階であれば十分に自分の思いを語ることができ、この時期の看護は認知症高齢者の生き方の決定に活かすための支援につながると考えています。現在は診療所に勤務する看護職が高齢者の意思決定を支援するための教育プログラムの作成に取り組んでいます。

地域在宅看護学

	教 授 越田美穂子
研 究	
●公衆衛生看護学・ 事業評価・キャリア支援	

地域の専門職や住民、関係機関と協働で研究を進めています。最近では、富山県後期高齢者医療広域連合と共同で、「介護予防と保健事業の一体的実施」事業での自治体内外の連携について研究を行いました。また認知症支援の研究では、当事者や施設支援者への介入効果だけでなく、地域への波及効果等の公衆衛生看護の視点や、本学工学部と連携した工学的視点を導入して分析を行い、地域保健活動での実践効果の可視化を目指しています。

	教 授 清水 暢子
研 究	
●公衆衛生看護学・ 精神保健・介護予防	

地域の高齢者が参加している、介護予防教室では、運動や音楽、ダンス、パソコン教室やマージャンなど、多くの予防的介入が実施されていますが、実際にそれが効果を発揮しているのか明確ではありません。そこで、近赤外分光法(NIRS)を使用した効果測定方法を国内外の高齢者サロンへ行って測定、分析し、生活背景の違う様々な場所で、高齢者への認知機能低下予防活動の評価方法の確立に努めています。

	准教授 伊藤 裕佳
研 究	専門看護師
●健期ケア施設・ キャリア支援	

長期ケア施設で働く看護職の多くが病院での経験を経ていることから、就職後の教育的支援や成長過程について明確に示されていない現状があります。また介護職では、その人材育成を看護職が担っていることがあります。そこで、長期ケア施設の看護職の成長について調査し、さらに看護職による介護職のキャリア支援の実践を調査しました。また、長期ケア施設における看護職・介護職へのキャリア支援プログラムの開発に取り組んでいます。

	准教授 青柳 寿弥
研 究	専門看護師
●認知症ケア・家族・ ユマニチュード	

認知症の人をケアするご家族が、病気の症状に対してどのように対応すればよいのか、どのような社会サービスを利用できるのか等を主体的に学ぶことができるタブレット端末の教材を開発し、更なる精錬を目指しています。また、認知症によって会話等が難しくなっても、その人との間に絆を結び、通じ合えることができるユマニチュード®ケア技法を、看護学教育に取り入れ、病院や施設への更なる普及に取り組んでいます。

	講 師 川口 寛介
専門看護師	
●前立腺がん・QOL・ 排尿ケア	

高齢男性に多い前立腺がん患者への看護に関する研究に取り組んでいます。特に、手術を受ける患者を対象にインタビュー調査や長期的な追跡調査を行い、多角的な視点からQOL 評価を行っています。がんと診断され治療を受けながらも自分に自信をもちながら暮らすことができるよう、身体面・精神面・社会面からQOL を理解し、QOL を高める支援を目指しています。また、尿失禁等の排尿ケアに関する研究にも取り組んでいます。

博士後期課程

看護学の専門領域に関する教育・研究を自立して行い、多元的・多角的視点から、地域や社会の保健医療福祉のニーズに対応し、看護学を発展・牽引する高度な研究能力及び豊かな学識を備えた人材を養成します。

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

本研究科(博士後期課程)の入学者には、看護師資格を有する次の素養をもった人を求めます。

- 1. 看護に関する高度な知識と実践能力を有する人
- 2. 看護学の教育・研究に深い関心と本質を探究する論理的思考力を持ち、看護研究に関する基礎的能力を有する人
- 3. 地域や社会の保健医療福祉における多様な課題解決に向けて主体的に取り組む意欲のある人

ディプロマポリシー

- 1. 多元的・多角的視点から地域や社会の保健医療福祉の課題を把握し、必要なケアを創出するためのデータに基づく科学的方法論を修得している。
- 2. 地域や社会の保健医療福祉の課題解決のために、必要な看護ケアを実践の場に定着させるための方法論を修得している。
- 3. 地域や社会に寄与する看護ケア創成のために、科学的思考に基づき自立して研究・教育を遂行する能力を修得している。

博士後期課程カリキュラム

カリキュラムポリシー

- 1. 広い視野と論理的思考力により看護を科学的に探究する能力を育む。
- 2. 地域や社会の保健医療福祉の課題解決に向け、データに基づく科学的方法を活用する能力を培う。
- 3. 地域や社会に寄与する看護ケア創成のためにステークホルダーと協働しながら、自立して研究を遂行する能力を培う。

科目区分	授業科目	配当年次	学期	単位数	
				必修	選択
基礎科目	看護学研究特講	1	前	2	
	ケアシステム特講	1	前		2
	グローバルヘルス特講	1	前		2
	小計（3科目）			2	4
専門科目	データ駆動型ケア特講	1	前	2	
	ケア創出特講	1	後	2	
	ケア実装特講	1	後	2	
	小計（3科目）			6	
研究科目	看護科学特別研究	1～3	通年	6	
	小計（1科目）			6	
合計（7科目）				14	4

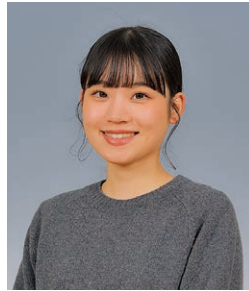
博士後期課程研究指導教員紹介 職位は2025年4月時点を予定

職／教員名	研究指導内容
教授 松井 弘美	● 周産期にある女性と家族への看護ケアに関する研究 ● 周産期領域における基礎教育・現任教育の教育方法に関する研究 ● 子どもの健康課題に対応する看護ケアに関する研究
教授 岡本 恵里	● 看護基礎教育・現任教育の教育方法に関する研究 ● 看護教育・人材育成に関する課題分析に関する研究 ● 看護教育プログラムの開発と効果検証に関する研究
教授 片田 裕子	● 慢性疾患看護に関する研究 ● 成人のメンタルヘルスに関する研究 ● 成人看護教育に関する研究
教授 越田 美穂子	● 公衆衛生看護学に関する研究 ● 地域における予防・保健活動の評価に関する研究 ● 公衆衛生看護に関わる人材育成に関する研究
教授 清水 暢子	● 地域高齢者の介護予防・フレイル予防に関する研究 ● 認知症予防、軽度認知機能障害低下予防に関する研究 ● 精神・知的障害者就労支援に関する研究 ● 前頭葉機能と脳血流量活性、ストレスに関する研究 ● 地域精神保健福祉に関する研究
教授 林 静子	● 臨床判断能力の育成に関する研究 ● 看護技術教育に関する研究 ● ICTを活用した教育プログラムの開発に関する研究
准教授 浦井 珠恵	● 褥瘡の予防ケア・皮膚創傷ケアにおける有効性の評価に関する研究 ● 褥瘡発生要因となすれ力測定機器の開発・評価に関する研究 ● 看護ケア技術のエビデンス探索に関する研究

研究科生紹介

2023年4月に開設された富山県立大学大学院看護学研究科。
学生みなさんに直接インタビューしてきました。

01 / interview



笠谷 奈央さん

博士前期課程（2024年度入学）
研究コース

Q1 研究テーマを教えてください

地域在住高齢男性のひととの交流に対する思いに関心をもち、研究に取り組んでいます。高齢男性を対象としたこの分野の研究は様々あり、研究疑問を焦点化することの難しさを実感しています。高齢男性は、人と交流することに実際どのような思いを持っているのか、ニーズは何か?ということをはっきりと出来ればよいです。

Q2 仕事・私生活と学業の両立について

授業が夜間にある為、昼間は研究室で課題や研究をしていることが多いです。そのほか、本や論文を読んだり、研究テーマに関連のあるフィールドにも出向いたりし、充実した学びを得ています! 休日は遊びに行き、リフレッシュすることも大切にしています! 大学院は時間の使い方の自由度が高いからこそ、メリハリをつけることを心がけています。

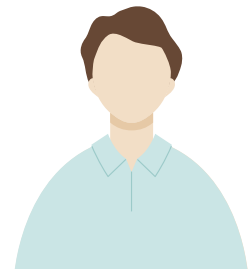
Q3 研究科の魅力・入ってよかったこと

経験豊富な看護職の先輩方と、同級生と一緒に学べることです。授業では学生皆が能動的な姿勢でディスカッションをしています。それぞれの立場からの意見に触れ、1つのテーマに対し多角的で深い学びができます。また、学生の思いを主体としながらも鋭い指摘や視野が広がる指導をしてくださる、深い知識を持つ先生方の存在も魅力です。

Q4 卒業後の進路展望

地域で、保健師として働きたいと考えています。大学院で学んだ考え方や研究した事を現場で活かし、地域住民の皆さんの暮らしを支えられると良いと思います。実践活動を通し、新たな研究疑問と出会ったときには、また大学院の道に進みたいと思います。将来どのような道を選ぶにしても、大学院で学んだ経験は活かされると思います!

02 / interview



畠中 健さん

博士前期課程（2024年度入学）
研究コース

Q1 研究テーマを教えてください

呼吸器センターに勤務する中で、在宅酸素療法を受けながら生活する方の災害時支援に関心を持っています。避難の有無に関わらず、療養生活が継続できるよう、看護職者として介入・支援を行いたいと考えています。講義での学びや、教員・院生同士のディスカッションを通じてテーマをさらに深め、より実践的な研究へと発展させていきたいです。

Q2 仕事・私生活と学業の両立について

大学院での学びを臨床看護に活かすため、長期履修制度を利用しながら総合病院で常勤看護師として勤務しています。県外から公共交通機関を利用して通学しており、移動中の隙間時間を活用して課題や研究に取り組んでいます。仕事と学業を両立する中で、効率的に学修する力が身についたと実感しています。

Q3 研究科の魅力・入ってよかったこと

看護を理論や概念に基づいた学問として学べることが大きな魅力です。豊富な知識と経験を持つ教員の方や、多様な領域や立場で活躍する院生とのディスカッションを通じて、視野が広がり、学びが深まります。自分の考えを言語化して伝える難しさや、他者の意見に耳を傾け、聞く事の重要性を日々実感しながら、着実にスキルアップを感じています。

Q4 卒業後の進路展望

卒業後は、大学院での学びを臨床現場に活かし、看護の質向上に貢献したいと考えています。また、将来的には教員として看護学教育に携わり、研究を継続しながら自らの課題解決にも取り組んでいきたいです。

03 / interview



竹本 聡美さん

博士前期課程（2023年度入学）
専門看護師コース

Q1 研究テーマを教えてください

高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアについて興味があります。高齢者の尊厳を保持するには病院内の医療スタッフをはじめ、家族や地域の医療・福祉スタッフとの連携が必要であると臨床の経験から感じていました。高齢者の尊厳や連携とは何かということについての考えを深め、テーマをさらに絞り込んでいこうと思っています。

Q2 仕事・私生活と学業の両立について

仕事はフルタイムで継続しながら進学しています。通学に時間がかかるため、職場では時間の配慮をしてもらっています。私生活では小学生の子の母親でもあり、家族の協力があっての進学だと日々感謝する事ばかりです。授業以外の学びの時間をどう確保していくかが入学してからの課題であり、時間管理の大切さを感じています。

Q3 研究科の魅力・入ってよかったこと

レポートやプレゼンテーションなどを通して、自分の考えていることを他者に伝えるように言語化することについては大きな学びになっています。また、老年看護学講座は教員の層が厚く、様々な視点から物事を考えさせていただくことができます。専門看護師コースは3人いますので、共に支え合うことができとても心強いです。

Q4 卒業後の進路展望

老人専門看護師について興味があるものの、なかなか踏み出せずにいましたが、富山県立大学に専門看護師コースができ、「今しかない!」と飛び込みました。修了後は資格取得のために学びを深める必要があります。病院での勤務を継続しながら、地域全体の高齢者のために看護師としてできることについて取り組みたいと考えています。

修了生紹介

01 / interview



高橋 明日香さん

修士課程 研究コース
(2025年3月修了)

▶ 大学院で得た学びと今後について

私は、仕事をしながら大学院で学び、本当にワクワク幸せな2年間を過ごせました!

大学院で得た学びは大きく3つあります。

- 1 ニーズを拾い上げる力、データを科学的に分析する力: 大学院の授業では、自身の研究の分析や、論文のクリティックをします。潜在的なニーズを裏付ける力、公表されたデータの妥当性を分析する力がつきます。
- 2 人に説明する力: 授業はプレゼンテーションやディスカッションを中心に行われます。人前に立つ自信がつくのはもちろん、どう説明したら論理的に相手に伝わるか考える力がつきます。また、大学院では様々な年齢や職種の方が集まっています。幅広い立場の方とディスカッションできる機会は本当に貴重です。
- 3 探求する力: 授業内でも、課題を探究する投げかけが多くあります。私は、社会人を経たからこそ、学部生時代よりも様々な疑問が多く、探求できることに毎日ワクワクしていました。県立大学だからこそ県に密着した授業や研究ができたり、看護分野にとらわれず工学部などの幅広い先駆者のお話を聞けたり、積極的な学会発表のサポートや、日本に限らず世界の論文を扱うなど、探求心が刺激されワクワクが止まらない2年間でした!

大学院で学んだことは、そのまま仕事に直結する力ばかりです。大学院で得た力と、繋がったご縁を大切に、県民の方々の健康に還元できればと思います。

02 / interview



室 日菜子さん

修士課程 研究コース
(2025年3月修了)

▶ 大学院で得た学びと今後について

大学院では、授業の中での多くのプレゼンテーションや文献クリティック、フィールドワーク、学会発表、看護研究などを経験しました。私たち1期生13名のうち学部卒は2名でしたが、社会人の院生と一緒に授業では貴重な臨床経験を聴くことができ、知見が広がりました。

私の研究テーマは「喪失と悲嘆」で、「患者との死別を経験した看護師の成長」について、修士論文をまとめました。研究のプロセスと指導教授とのディスカッションを通して、分析方法や論理的思考を学びました。特に、調査で得られた結果を分析し、考察する過程はとても時間がかかりましたが、熟考を重ねることでより多角的な視点から捉えられたと思います。

フィールドワークでは、遺族ケアのサポート（グリーフケアの会）を見学しました。大切な人を亡くした方の語りを直接聴かせていただき、死別体験は故人との歴史や関係性、遺族の状況や生活背景などにより、一人ひとり異なることを実感しました。その人を知り、ありのままを受け止める大切さを再認識したとともに、個別性とは何かを考え直す機会になりました。

大学院修了後は、急性期病院の看護師として勤務します。大学院での学びを患者と家族へのケアに活かし、悩みや葛藤に直面した場合は、一旦立ち止まり、振り返る時間を持ちたいと思います。そして、看護研究で得た結果をふまえて、周囲のスタッフと自分自身のことも大切に、思いやりを続けたいと思います。

